

2016年4月 - 通商代表部きもの体験交流



「日口交流」5月号より

4月13日（水）午後2時より、毎年恒例の品川にある通商代表部でのきもの体験交流が実施された。主席代表夫人のエレーナさんからのご依頼で、きもの先生方4名（森美恵子、小泉克子、金澤マサ子、大里璋子）に呼びかけ、金澤先生のお弟子さん（荒井光子）と千葉も着付けに入る。坂本さんと平野さんも見学に来て、きものをたたんだりするなど手伝ってくれた。

通商代表部のホールにはエレーナさんたちが床に敷物を広げておいてくれた。前もって送っていただいた振袖7枚と女児のきもの3枚、男性と男児のきものセットを並べ、希望者に好きな色のきものを選んでもらう。女の子たちは好きな色が重なってしまい、先の子がなかなか脱がないので待ちくたびれて泣き出す子もいた。

入れ替わり立ち代り希望者が入場して、38人位着せたのだろうか。同じ人が違う色の振袖を着たりしていたので、ほとんどひっきりなしに着付けしていたが2時間近くかかったと思う。きものを着るといつの間にかいなくなっていて、外で写真撮影をしたり誰かに見せに行ったりしていらしたようだ。一緒に写真を撮りたいので、仕事の合間に知り合いが来るのを待っている方もいた。

エレーナさんに全員着終わったことを確認して片付けに入



る。きものは小物が多いので、この片付けも案外時間をとってしまう。元通りにダンボールにしまい送り状を貼ると、エレーナさんやオリガさんたちが手作りのピロシキなどお茶を用意してくれている。

先生方は、色白の綺麗な外国人に着せて喜んでもらうのが楽しいと言う。時に条件の悪い、小物類も不十分にも関わらずお客さんに無理を要求され完璧にできて当たり前の仕事をしている中で、こんな風に感謝されるのはいかにも

楽しいに違いない。私たちみんな、やはりきものが好きでこの世界に入ったので、「綺麗なきものが着られるこの日は私たちにとって祝日です」と笑顔で言われると疲れも何も吹き飛ばしてしまう。初めて本場のピロシキをいただいて油っぽくない、と感動していた先生もいて少しづつお土産に頂戴した。そして皆さんが、また協力します、と約束してくれた。